

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2774600429		
法人名	医療法人 養心会		
事業所名	グループホームローズガーデン国分		
所在地	大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目8-3		
自己評価作成日	平成 27年 5月 8日	評価結果市町村受理日	平成 27年 6月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2774600429-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 5月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者が生活する中でストレスをかけない安心感を提供し、また安全な生活を送って頂くように入り組み、本人に必ず自己決定してもらえるように支援をしている。 ②アクティビティ活動を取り入れ意欲を引出す活動づくりに取り組んでいる。 ③血行を良くする炭酸浴を導入はじめました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

精神科医療に取り組む医療法人が、地域のニーズに応えるために開設したグループホームです。山々に囲まれた緑豊かな環境で、リビングや各居室からも緑いっぱいの景色を眺めることができ、四季折々の自然を感じることができます。今年、事業所名の変更を機に、食事をホームで作ることや炭酸浴の導入、制服更新等、様々なサービス改善を試み、利用者から好評を得ています。利用者一人ひとりのできる事を尊重し、その能力を活かした支援や、利用者が安心して、ストレスを感じない本人のペースに合わせた暮らしの支援を大切にしています。利用者の意欲を引き出すアクティビティ活動は、利用者の暮らしに潤いを与えています。地域活動へも積極的に参加し、今後も認知症の情報発信地として、地域貢献を予定しています。「ホームを良くしていこうと、前向きな職員が自慢です」という管理者をはじめ、チームワークのよい職員が支える利用者の暮らしはほのぼのとしており、温かい雰囲気を感じさせるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本人のニーズに合わせたケアや理念を踏まえて職員が意識をして実施につなげています。	「認知症の状態にあっても、一人の人として、人格を認め、その意志を尊重し、地域社会のつながりを大切に個々に有する能力に応じた自立した日常生活を支援することを理念としている」と理念を掲げ、各ユニットに掲示しています。管理者と職員の個人面談でも、理念を活かしたものにするため、個人目標を確認しています。広報誌「ローズガーデンだより」にも理念を掲載し、家族や地域に理解を得ています。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な図書館利用、近隣のスーパーへの買物に行きます。 秋祭りへの参加や青年団に太鼓のボランティアに来て頂いたりして積極的に参加させて頂いています。	地域との交流には積極的に取り組んでおり、散歩途中でも日常的に交流を図っています。地域の青年団による太鼓演奏や、フラダンスのボランティア訪問があります。中学生の職業体験や、介護福祉士の実習生の受け入れも行っています。町内会が実施する、川の清掃活動にも参加しています。古新聞は、地域子ども会の廃品回収に出すなど、地域との交流を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	事業所連絡部会や地域での勉強会に積極的に取組み地域の人々に理解を得ています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。 家族や市の行政役員、地域の民生員にも声をかけて集って頂いています。そこで、入居者様の近況報告や情報や意見交換を行なっています。	運営推進会議については、規程を作成し、2カ月に1回開催しています。会議には家族、元老人会会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員が参加し、利用者の生活状況を報告・説明し、参加者から評価や助言を得て、事業所の運営に活かしています。会議の議事録は家族に送付しており、今後は、家族の参加を増やせるよう検討する予定です。	今後は、会議に参加する家族等が、意義を見出せるような内容を検討してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ユニット2の職員では、市町村担当者を設けていないので、基本的に施設管理者が窓口になっています。	解らないことや困ったことがあれば、その都度、市の担当窓口足運び、相談しています。サービス事業者連絡会には市職員も出席しており、情報の交換と連携を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット2は建物が2階のため玄関がありません。 エレベーターと非常出口だけなので、出入り口が少ないのも行動制止につながり、これも拘束であると介護職員は認識して生活支援を心がけています。	管理者は、身体拘束をしないケアの大切さを認識しています。虐待・身体拘束委員会があり、具体的な禁止行為についてのマニュアルの整備、内部研修等に取り組んでいます。職員は外部研修に参加し、伝達研修で共有しています。最近、利用者の離設があり、安全面を考えて、1ユニットの玄関を現在施錠しています。外出願望の利用者は、職員が察知して付き添うなど、自由な暮らしを支えるよう努めています。	今後は、玄関等の施錠について、利用者が自分の意思で開けることができない状況が、身体拘束であることを認識し、鍵をかけず安全に過ごせるよう工夫を重ねていくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にも参加して、参加者は伝達講習を設けて、それを内部研修として多くの職員に周知してもらえるように取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何かあった場合にすぐに家族に連絡をし、また、面会時に家族へ疑問点等を尋ねて、その都度説明や報告を行なっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を行なっています。 また、日頃から家族と連絡を取り合っ て要望を聴きながらプランに導入して 反映させています。	各ユニットの玄関には、相談・苦情先 を明記した大きな意見箱を設置し、何 時でも意見等を出しやすいようにして います。家族の来訪時には、職員が利 用者の様子を伝えながら、意見を聞く ように努めています。家族には毎月、 利用者の近況報告書を送り、信頼関 係の構築に努めています。また、家族 の意見を聞くために、運営推進会議へ の参加の呼びかけ、意見記入用紙の 送付等、工夫を重ねています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1度のユニット会議を設け職員の意見や提案を受け入れています。 内容によっては教育委員会や業務委員会等に議題をあげて、その会議で協議する場合があります。</p>	<p>管理者はユニット会議に参加し、職員の意見を聞く機会にしています。職員は、自由に意見を出し、話し合っています。管理者は各種の委員会（運営会議、業務委員会、リスク委員会、サービス向上委員会、アクティビティ委員会他）を設け、職員は委員会に参加し、意見を出して業務に反映しています。制服の更新、食洗器の導入等は職員の意見が基に、実現しています。管理者は今後、目標管理制度を導入し、年2回、職員と面談の場を増やす考えです。管理者と職員の信頼関係もよく、離職者が少ない、働きやすい職場環境です。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員より意見を聴き、現場にて整備できるところは整備します。 但し、補修が必要な場合は管理者に相談をしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員や個々の力量に応じた研修を受け働きながらトレーニングしていくことを勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人より医師が定期的に勉強会を設けて頂いたり、施設内の研修報告会（伝達講習）に参加して、現場でのサービス向上へつなげていきます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りいろいろと見極める事を第一にして、本人との関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心と信頼を築くことを心がけながら、家族の情報に傾聴し、その情報を他の介護職員と共有するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎日の生活においてコミュニケーションを大切に職員同士の情報交換をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれが生活するにおいて役割等を設け、入居者同士にも関わる機会をつくり関係性を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困っていること等を家族にも相談して、場合によっては家族からご本人に説明をして頂いたりして、入居者様を介護職員とご家族が共になって支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流ができる入居者様は面会に来て頂いたり、地域のお誕生日会に参加されたりして、人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。図書館に通う利用者、馴染みの店で買い物をする利用者、自治会主催の誕生日会へ参加する利用者、友人が訪ねてくれる利用者等があり、職員は少しでも長く継続するよう支援しています。家族から、利用者宛にはがきを送ってもらう取り組みもしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同でできる作業は介護職員と一緒にして頂いたりします。 入居者様同士で行うこともありますが、関係がうまく行ってない場合は、介護職員が間に入って支えあえるよう支援します。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族とは、なかなか連絡が取れにくいようですが、必要に応じてフォローし相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えがある際は、自立を基本に考えるも何よりも本人の意思を尊重します。	職員は、利用者一人ひとりの思いや願い、暮らし方を支援するため、日常支援の中で、利用者の情報収集に努めています。確認できた情報は、『個人別連絡ノート』に記録し、職員間で共有する取り組みをしています。課題によっては、ケアカンファレンスやユニット会議で話し合い、支援の実現に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーやコミュニケーションから引き出して、その情報を職員間で共有しサービス利用の経過の把握につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員本位のペースではなく、本人のペースで過ごして頂いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月単位の計画更新により適切なケアになるように、その都度検討して更新や追加を行なっています。	入居時、利用者や家族の意見や要望を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。モニタリングは毎月実施し、介護計画は基本的に3ヵ月毎に見直しています。介護計画に立てたサービス内容を個人記録に転記し、毎日サービス内容の実施状況がチェックできるように工夫しました。計画作成担当者は、本人の思いを汲み、「自分のことをよくわかっている」と利用者に実感してもらえる計画作成を心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日計画を実施できているとか、本人の毎日の状態や気づき等は個人記録に記載し実践や計画の見通しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、本人の状態を考慮し柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の青年団に太鼓のボランティアに来て頂いたり、地域のフラダンスや歌謡に積極的に参加し暮らしを楽しむことができる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の体調管理を行いながら、本人や家族の希望があれば受診をして適切な治療を受けられるように支援しています。	かかりつけ医への受診は、利用者や家族の希望を尊重しています。現在も継続し、入居前からかかりつけの医療機関へ受診している利用者がいます。家族の付き添いが困難な場合は、職員が付き添います。また、かかりつけ医がホームに往診に来ている利用者もいます。ホームの協力医は週1回、往診に来ています。夜間も看護師とオンコール体制をとり、緊急時に対応してもらいます。看護師資格を持つ管理者の存在は、利用者・家族・職員も安心できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的にバイタルサイン測定を行い、普段と違いがあれば看護師に相談し指示を仰ぎ適切な受診や援助が迅速に受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同法人の精神科病院に入院をした場合、週2回の洗濯物を取りに行くことになるので、その時に本人の状態や病棟看護師から情報を伺い把握をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は協力病院に搬送となることもご家族と十分話し合っ理解を得ています。	重度化した場合や終末期のあり方については、家族等に説明しています。事業所と同じ法人系列の医療機関と連携しており、重度化や終末期においては同法人の病院や協力病院に搬送し、ホーム内での看取りは実施しない方針を家族等に理解してもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命救急の講習（年1回）に参加して実践力をつけるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施（年2回）。その中で、消防隊員が来所しての消防訓練に参加して災害時に備えます。また、地域にも声をかけて協力体制の理解を求めていくようにします。	年2回避難訓練を実施し、1回は消防署指導の下で行っています。出火原因となりやすい水回りのコンセントの埃の点検も行っています。今後は、夜間を想定しての避難訓練を予定しています。災害時に備えて、飲料水や食品も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、更衣等の介助等ではプライバシー保護に心がけ、一人ひとりの人格を尊重しています。	人権の尊重は理念にも明記されており、プライバシーの確保と合わせて接遇研修の中で、繰り返し取り上げて理解を深めています。また、トイレ誘導や入浴時際には「利用者のペースに合わせる」ことも、声かけ同様に尊厳を守る対応と捉え、職員間で共有しています。前回の評価訪問時、居室内のポータブルトイレが廊下から見える位置にありましたが、即時に検討を行い、改善しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの申し出に対して、介護職員が全てやってしまうのではなく、ご本人に選択権を持ってもらい、最終的に自己決定していただくように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調に気をつかい、ご本人が選択して行なえるものは見守りで行なって頂きます。 また、ご本人がどのように過ごしたいのかは、本人の希望に沿って支援を考えていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や整髪など、本人で出来る範囲はして頂いて、介護職員が気づいた箇所については、ご本人の意思を尊重する配慮をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在外部給食で調理はユニットで行います。それ以外で、週3回は入居者様の希望に沿えるおやつ作りを実施しています。 おやつ作りには入居者様も大変喜んで頂いています。楽しみが一緒に手伝いや片付けにつながっています。	事業所名の変更を機に、食事を温めるクックチル方式から、食材のみ外部業者から仕入れてユニット毎に調理する自炊へと切り替えました。これにより、食事を心待ちにする利用者や炊事に参加する利用者が増えました。中には、残存能力が向上し、見事な包丁遣いを披露する利用者もいます。週に2回ほど、余った食材等を用いて、利用者と一緒にホットケーキやプリン、お好み焼きなど間食も手作りしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に合わせて食事量を調整し、また、水分を摂って頂けるように支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分から口腔ケアをされる入居者様もおられますが、毎食後に口腔ケアの声かけを実施させて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用しているも、本人の観察により布パンツに変更したり、本人に対応しながら自立の支援を行っています。	日中は、トイレでの排泄を基本としています。職員は、排泄チェック表に細かく記載して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導しています。排泄パターンを把握して誘導することで、リハビリパンツから布パンツに替えられた事例があります。	トイレが食堂のすぐ横にあり、入口はカーテンで仕切っている状況です。排泄時の羞恥心やプライバシーの確保等、利用者の尊厳について職員間で再度確認を行い、工夫することが望まれます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量を把握し少ない時は飲みやすいものや食べやすい物（ゼリー、ヨーグルト等）を提供させて頂いています。 また、体操等もユニット内で実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日その日に、ご本人へ確認をして本人の希望や時間等も配慮しながら、入浴したいと思える場面作りを設け、個々に沿った支援をしています。	ホーム名称の変更を機に、1階の浴槽に炭酸のボイラーを外付けし、炭酸浴が楽しめるようになりました。現在はユニット1のみですが、ユニット2、ユニット3ではこのお湯を使って、足浴を実施しています。希望する利用者には毎日でも入浴できる体制を整えていますが、平均回数は週2回です。入浴を好まない利用者に「今日は娘さんが来るので入りませんか」等、家族の協力を得て、声のかけ方やタイミングを工夫し、対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間を大切にし、施設の都合ではなく、入居者様自身の生活リズムに合わせて室温や湯温管理を行い、安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬に関わり何を服用されているのかを理解して状況を把握することに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、日光浴、散歩等、本人が希望することをすすんで行なっています。 声かけにより本人にその気になって頂き、楽しんでもらったり、気分転換になるよう支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方々との協力は十分ではありませんが、外出等の機会を設けて支援していくよう努めています。	屋外レクリエーションとして、春・秋に花見や市民ホールで催される催し物の観賞に出かけています。日常的な外出支援では「散歩クラブ」を設け、職員と一緒に施設の周辺を散歩したり、駅周辺まで買い物や図書館に出かけたりしています。敷地内の庭で、落ち葉拾いを楽しむ利用者もいます。今後は、ドライバーを兼ねた営繕担当職員に、利用者の個別外出支援を担ってもらうよう、検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は基本預かってないので、個人の買い物は、こちらで立替え支払いです。しかし、支払い時に、ご本人に現金を渡して会計を済ませてもらうことで、買い物に参加した体験になります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人が希望した場合は家族等へ電話をかけて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるような雰囲気作りや気持ち良く過ごせるような環境作り行なっています。	木調の壁やフローリング、木製家具でまとめた共有空間は重厚感があり、随所にある窓から見える緑豊かな風景が、絵画のように目に飛び込みます。適温に空調管理された空間は、広い通路をはさんで居室や浴室、トイレが並び、中央にリビングを兼ねたダイニングキッチンがあります。利用者はテレビやソファや趣の違う椅子などを備えたりリビングで1日の大半を過ごしています。2階の玄関先には、利用者や家族から寄贈された本を収納する書棚と小さなテーブルセットを置いた読書コーナーを設け、1階からエレベーターで上がってきて、読書をする利用者の姿も見られます。	壁面には、利用者が作った季節のちぎり絵作品等を飾っています。しかしながら、重厚感のある空間では単調になりがちになるため、再度検討することが期待されます。例えば、庭に咲く花を飾ったり、利用者が懐かしさを感じるような雑貨や小物を増やしたりする等、事業所名の「ローズガーデン」からイメージされる、家庭的でより明るく、温かい共有空間作りを目指してはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際の廊下にくつろげるテーブルや椅子を設置して、思い思いに過ごせる様な居場所作りなどを工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅から持って来られた使い慣れた物を使用して頂くことで居心地良く過ごせるよう工夫をしています。	利用者が以前使っていた馴染みの家具や、大切にしている家族の写真、趣味のぬいぐるみ等を持ち込み、その人らしい居室になるよう工夫しています。使い慣れた物を末永く使ってもらおうと、管理者が修理することもあります。帰宅願望の強い利用者と自宅に行き、使い慣れた家具を持って帰ろうと約束した事例があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターの使用、洗濯干し等、できる事はして頂いて、施設内で自由に行動して自立した生活が送れるように支援しています。		